

平成 19 年 12 月 17 日

アコム株式会社
株式会社三菱東京 UFJ 銀行

インドネシア共和国のバンク・ヌサンタラ・パラヒャンガンの共同買収について

アコム株式会社（代表取締役社長 きのした しげよし 木下 盛好）と株式会社三菱東京UFJ銀行（頭取 くろやなぎ のぶお 畔柳 信雄）は、今般、インドネシア共和国の銀行である「バンク・ヌサンタラ・パラヒャンガン（PT. BANK NUSANTARA PARAHYANGAN Tbk.）」（以下Bank BNP）の発行済株式の約 75.4%について、既存株主との間で株式売買取引を行い、Bank BNPの共同買収を完了しました。これにより、Bank BNPはアコムの連結子会社となり、三菱東京UFJ銀行の持分法適用関連会社となります。

※本件に関し、昨年 11 月 28 日、Bank BNP の発行済株式の約 75.4%をアコムと共同で取得することについて、既存株主と合意し、株式売買契約を締結したことを公表しています。

1. Bank BNP 買収の目的

インドネシアは東南アジア最大の人口を有しており、リテール金融分野のマーケットの成長性が期待できることから、アコムと三菱東京 UFJ 銀行のノウハウと Bank BNP のネットワークの融合・連携により、消費者ローン業務を中心とした業務の拡大が見込めるものと判断し、今回、Bank BNP の共同買収を実施いたしました。

2. 株式売買取引の概要

取得株式数	238,699,500 株（発行済株式総数 316,550,000 株の約 75.4%）
出資割合	アコム 175,389,500 株※（約 55.4%）、三菱東京 UFJ 銀行 63,310,000 株（20.0%）
株式取得日	平成 19 年 12 月 17 日

※今後アコムは、インドネシア会社法および資本市場監督局規定に基づき、現地にて、本件取引以外の株式（約 24.6%）を対象とした公開買付を行うため、最終的にアコムの保有株式数は増加する可能性があります。

3. 今後の展開

Bank BNP のネットワークにおいて、アコムの持つノウハウを活用しつつ、消費者ローンの各種サービスを展開していきます。また、銀行管理面では、三菱東京 UFJ 銀行の持つリスク管理手法の導入を図っていきます。

4. アコムの業績見通し

アコムが平成 19 年 11 月 8 日に公表しております 2008 年 3 月期業績予想に変更はございません。

以上

(ご参考)

Bank BNP の概要

- (1) 商 号：バンク・ヌサンタラ・パラヒャンガン
(PT. BANK NUSANTARA PARAHYANGAN Tbk.)
- (2) 本 社 所 在 地：インドネシア共和国バンドン市
(Jl. Ir. H. Juanda No.95 Bandung, 40132 Indonesia)
- (3) 代 表 者：ソマリン・ジョナサン (Soemarlin Jonathan)
- (4) 設 立：1972 年 1 月
- (5) 資 本 金：1,583 億インドネシア・ルピア (約 21 億円、2006 年 12 月末現在)
- (6) 総 資 産：3 兆 3,515 億インドネシア・ルピア (約 446 億円、2006 年 12 月末現在)
- (7) 上場証券取引所：インドネシア証券取引所 (2007 年 12 月 1 日にジャカルタ証券取引所とスラバヤ証券取引所が合併してインドネシア証券取引所となりました)